BACKLASH OF FEED

『地獄の特訓 打てるか?』

『地獄の特訓 打てるか?』は、初心者に優しいタイプトレーニングシステムです。
パーソナルコンピューター入門者にとっての最大の難関は、キーボードではないでしょうか? せっかく、高価なワープロソフトや表計算ソフトを購入しても、人差し指一本でキーボードに目がとられっぱなしでは、まるで能率が上がりません。
いろいろな事ができると思ったパソコンが、キーボードタイピングが不慣れなために、意外と歯がゆい思いをしていませんか?まずはキーボードに慣れる事が大切です。手軽にタイピングの練習をしたい方に、『地獄の特訓 打てるか?』はぴったりです。
今までのタイピング練習ソフトの堅苦しさを取り除いて、最初は取っ付きにくいキーボードへのアプローチを気軽に始められるように考えてあります。

ブラインド・タッチは、プロのタイピストの芸当ではありません。多くの方々は正式な訓練など受けずに、パソコンとつきあっているのが現実です。集中的に練習すれば、誰でも身につけることができると言われています。しかし、普段からタイピングに不自由を感じていても、「堅苦しいトレーニングなんてまっぴらだ!」と考えていませんか?
そんなあなたに「地獄の特訓 打てるか?」は、きちんと対応しています。好きな時に好きな所から始めてください。普段からパソコンに接している方々にも、違和感なくレベルに応じて練習する事ができます。
誰でも気が向いた時に、いつでも練習できるのが、「地獄の特訓 打てるか?」の最大の特徴です。

トレーニングセクションの内容

●**基本練習**
キーと指の動きを全て網羅。
まずはここから始めます。
●**"右手基礎練習"、"左手基礎練習"(初級、中級)**
片手のキーのみを使った英単語を練習することで、より実戦的に練習できます。
●**"MS-DOS" "C言語"キーワード**
●**"英単語特訓"**
●**"左手、右手、両手特訓"**
これを楽にクリアできれば、あなたは立派なタイピストです。
●**"ゲームセクション"**
登場人物が投げつけてくる単語を打ち落とすゲームです。
●**"ユーザー登録単語"**
(全てのファイルは変更可能です)
●**テスト機能付きRPGキャラクター**

主要機能

●PC-9801のカラーグラフィック機能を活かした鮮やかな画面(98NOTE対応)
●アクション・ロールプレイング・ゲーム感覚のユーザーインタフェース
知る人ぞ知る、富士山麓の地獄の特訓道場をイメージしたコミカルなソフトです。あなたは、忍者になって特訓道場の中を探険します。
●FM音源ボードに対応した、BGM機能搭載
●実戦に即した英文タイプを基本にした練習形式
(カナ入力練習はありません)
●練習結果をビジュアルに表示
●一枚のフロッピーで5人まで共用して練習できる、ID管理機能
●画面に表示されるキーボードの大きさ(表示・非表示)を選択可能
●大幅なユーザーカスタマイズが可能
単語ファイルを編集する事で、覚えたいキーワードを自由に練習できます

興味本位でソフトの中を探険してください。そして、きちんと練習したい方に「地獄の特訓5日間コース」を用意しています。

必要機器構成

本　体:PC-9801シリーズ(VM21以降の機種、ただし、U2、XA、LTを除く)
OS:MS-DOS 3.10以上
ディスプレイ:高解像度(640×400の表示可能なもの)をお使いください
ディスク装置:3.5" 5.25" 2HDFDD1ドライブ以上
*FM音源ボードPC-9801-26Kまたは同等製品の使用が可能

定価:12,800円 消費税は含まれておりません

亀島産業株式会社
コミュニケーション事業部
〒106 東京都港区東麻布3-7-3 久永ビル3F
TEL 03(3585)4463　FAX 03(3585)4462

FEEDの逆襲

このたびは、FEED(フィード)培養キットをお買い上げいただきありがとうございます。

このFEED培養キットは、簡単な操作で圧力、温度、電圧等の調整が可能で、FEEDの生育に適した環境を容易に実現することができます。

この商品は、家庭用の鑑賞・娯楽器具として細心の注意を払っております。自動故障診断機能を備え、FEED培養キットになんらかの異状が発生しても、簡単な操作で、通常は数分〜数時間以内に回復します。また、故障の場合にも圧力、温度等の調整操作ができなくなるだけで、できるだけFEED槽の状態を一定に保つように設計されています。FEEDに与える悪影響を最小限にするよう配慮されています。

このように、耐久性・安全性については充分な考慮していますが、FEED自体が、まだ未知の物質であるため、不慮の事故等で生じた損害には、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

未知なるFEEDの世界

Undiscovered Feed World

ここは西暦２０００年をとっくに過ぎた近未来。科学技術庁の予測によると、この頃にはバイオコンピュータ、核融合、核ロケットだって当然だから、現在の科学技術が貢献している社会を想像してはならない。「ＦＥＥＤの逆襲」の舞台は、そんな未来の春からスタートする。

ＦＥＥＤは高純度金属結晶生物で特殊な環境かでしか生きられないはずであった。しかし、様々な実験により常温で育つＦＥＥＤが生まれてしまう。しかも、生体間接触によりつぎつぎと人々に感染していく生物に成長してしまった。

ＦＥＥＤ年表

２０２９年　３月	金星に向かう民間小型貨物船が謎の爆発事故発生
２０３０年　４月	事故調査委員会からレポート報告、事故原因を燃焼室の異常燃焼によるものと断定。
２０４２年　８月	宇宙開発事業団、航空工学研究所より「高純度金属結晶体から成る導電性の皮膜」を発表。
２０４７年１０月	高純度金属結晶生物を発見。
２０４８年　３月	「ＦＥＥＤ調査委員会」を発足。
２０６７年　４月	研究者用ＦＥＥＤ培養キット「ポラリスⅢ」発売。
２０９２年１２月	汎用ＦＥＥＤ培養キット発売。
２０９３年　４月	ＦＥＥＤ飼育がブームに
２０９７年　１月	ＦＥＥＤ学会に「常温育成のＦＥＥＤ」を発表。
２１０５年　２月	政府諮問機関「ＦＥＥＤ調査会」を発足。
１０月	政府は「ＦＥＥＤ基本法」施行
２１０６年　７月	世界伝染病学会にて「恐水症（hydrophodia）に類似した症例」が多数報告される。
２１０７年　２月	ＦＥＥＤ医学研究所で病原菌を「常温ＦＥＥＤ」と断定。
４月	政府はＦＥＥＤおよび、培養キットの販売、製造を禁止。
２１０Ｘ年	中近東でＦＥＥＤを使用した無差別汚染テロ勃発。

あなたは、ＦＥＥＤを聖剣として、ＦＥＥＤの感染から人々を守りテロリストの攻撃から都市を救うか、「新しい社会の秩序」を望み新たなる独裁者になるか、の２つのモードを選択できます。

フィード基本法

（二一〇五年一〇月一八日法律第二五一八六号）施行、二一〇五年一〇月一八日

第一章　総則

（目的）

第一条この法律は、フィードの研究、開発及び利用を推進することによって、将来における資源を確保し、学術の進歩と産業の振興とを図り、もつて人類社会の福祉と国民生活の水準向上と安全に寄与することを目的とする。

（基本方針）

第二条フィードの研究、開発及び利用は、平和の目的に限り、安全の確保を旨として、民主的な運営の下に、自主的にこれを行うものとし、その成果を公開し、進んで国際協力に資するものとする。

（定義）

第三条この法律において次に掲げる用語は、次の定義に従うものとする。

二「フィード」とは、高純度金属結晶生物および生育に放出されるすべての種類のエネルギーをいう。

第二章フィード委員会及びフィード保安委員会

（設置）

第四条フィードの研究、開発及び利用に関する国の施策を計画的に遂行し、フィード行政の民主的な運営を図るため、総理府にフィード委員会及びフィード保安委員会を置く。

（任務）

第五条フィード委員会は、フィードの研究、開発及び利用に関する事項について企画し、審議し、及び決定する。

二　フィード保安委員会は、個人の生命、身体の保護に任じ、ＦＥＥＤ犯罪の予防、鎮圧及び捜査、被疑者の逮捕その他公共の安全をと秩序の維持に当たることをもつてその任務とする。

（組織、運営及び権限）

第六条フィード委員会及びフィード保安委員会の組織、運営及び権限については、別に法律で定める。

第三章　フィードの開発機関

（フィード研究所及びフィード医学研究所）

第七条政府の監督の下に、フィードの開発に関する研究及び実験、その他フィードの開発促進に必要な事項を行なわせるためフィード研究所を、フィードの医療及びワクチン開発促進に必要な事項を行なわせるためフィード医学研究所を置く。

二　フィード研究所及びフィード医学研究所に関する規定は、別に法律で定める。

第四章　フィードに関する鉱物の開発取得

（鉱業法の特例）

第八条フィードに関する鉱業権又は

祖鉱権に関しては、別に法律をもって、鉱業法(二〇二五年法律第一〇二八9号)の特例を定めるものとする。

(買取命令及び譲渡命令)

第9条政府は、別に法律で定めるところにより、その指定する者に対し、フィードを買い取るべきことを命じ、又はFEEDの生産者又は所有者若しくは管理者に対し、政府の指定する者にフィードを譲渡すべきことを命ずることができる。

(フィードの管理)

第一〇条フィードの輸入、輸出、譲渡、譲受及び精錬は、別に法律で定めるところにより、政府の指定する者に限ってこれを行わしめるものとする。

(奨励金等)

第一一条政府は、フィードの開発に寄与する者に対し、予算の範囲内において奨励金又は賞金を交付することができる。

第五章フィードの管理

(フィードに関する規定)

第一二条フィードを生産し、輸入し、輸出し、所有し、所持し、譲渡し、譲り受け、使用し、又は輸送しようとする者は、別に法律で定めるところにより政府の行う規制に従わなければならない。

新たな道のり

―Open the Gate―

1. このパッケージの内容
FEED システムディスク／データディスク
各１枚(5インチまたは3.5インチフロッピー)
FEED マニュアル1冊(FEED 培養の手引書)
ユーザー登録カード1枚

2. 起動と終了
FEEDディスクは、そのままコンピューターのドライブ１にシステムディスクをドライブ２にデータディスクをセットし、電源を入れると起動します。
MS-DOSシステムを組み込む必要はありません。
終了時はそのまま電源を切るかリセットして下さい。

3. ハードディスクでの使用方法
ハードディスクをお持ちの方は、FEED をハードディスクに組み込んで培養することができます。
ハードディスクにFEEDを組み込む場合付属のプログラム「HCOPY.EXE」で行います。

MS-DOSを起動するドライブは必ずハードディスクから行ないます。

ここでは、ハードディスクのドライブを「A:」、「システムディスク」のドライブを「B:」として説明します。(ドライブは、ご使用の機器構成によって異なります。ご注意下さい。)

操作手順

① コンピューターの電源を入れて画面に "A>" が表示するように操作して下さい。
MS-DOS メニューコマンドの場合、[STOP] キーを押して終了して下さい。またハード ディスクユーティリティが起動している場合は、その操作にしたがい終了させて下さい。
② FEEDのシステムディスクを「ドライブ B」にセットします。
③ 「A>」のあとに次のように入力します。

A>B:HCOPY A: ↵ ◆

④　「FEEDのシステムを転送しますか？(Y/N)」

転送するのであれば、"Y ↵ "と入力して下さい。

⑤　「FEEDのデータを転送しますか？(Y/N)」

転送するのであれば、"Y ↵ "と入力して下さい。

⑥　ファイルをすべてコピーすると、つぎのように表示されます。
「ルートディレクトリにバッチファイルを作成しますか？(Y/N)」

通常するのであれば、"Y ↵ "と入力して下さい。

以上で、ハードディスクへの組み込みは終了です。

⑦　ルートディレクトリより「GAME.BAT」を起動することによりゲームが開始されます。

（参考）組み込みでおこなう作業。

1．　指定したハードディスクに、ディレクトリ「FEED2」を作成します。
2．　ディレクトリ「FEED2」に、「FEEDの逆襲」のファイルをすべて転送します。
3．　ハードディスクの、ルートディレクトリにバッチファイル「GAME.BAT」を作成します。

4．起動上の注意点

Ⅰ．　日本語フロントプロセッサー等デバイスドライバが組み込まれていると、メモリー不足等の理由により正常に動作しません。
Ⅱ．　ハードディスクの空容量は約２Ｍバイト程度が必要です。

ゲーム概略

このゲームは、2つのモードを選択できます。

1．新しい社会の秩序を望む集団「聖なる飛ぶ橋」の地域責任者となりＦＥＥＤを武器にして政府転覆をねらう「新秩序行進モード」

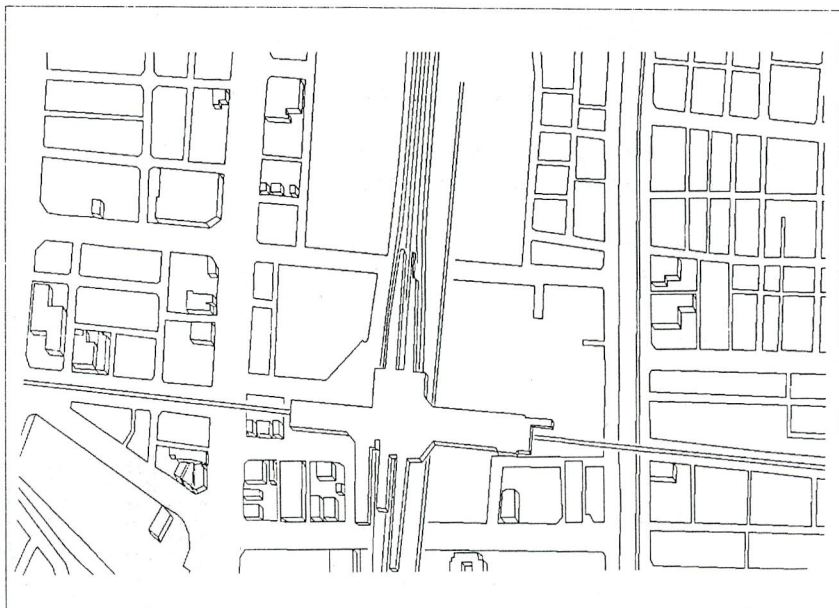
2．ＦＥＥＤの感染から人々を守りテロリストの攻撃から都市を守る「ディフェンダーモード」

登場人物紹介

内閣特務第3部　部長
ボーラン・カーン　図1．2

この風貌は印象深い。一度見ると忘れない。口からでる言葉はすべてトレンド、コンセプトと呼ばれ、世界中に影響を与えるのである。果たして、プログラマーといわれる大部分の人は彼の前で「へへー」と頭を垂れる。その様子が奇妙だから「ただの大風呂敷をヒラヒラさせるおっさんなのに」と皮肉を言う人もいる。

「新社会秩序」　最高指導者
ベル・ゲーツ　図1．3

初対面の人は「こいつはマザコンに違いない」と心の中で思うだろうが、彼はそれを望んでいる。教典を熟読してみると容易に理解できることだ。神とチャネリングする彼は、人の言葉を聞く耳はもたない。故に、彼は未来から現実を把握する。そして知っている。私を信じる人だけが幸福な窓を開けるということを。

■オールドエレタウン

このマップのモデルは電気街で有名なアキハバラのようだ。昭和２６年の道路法改正まで靖国通りにはＧＨＱ払い下げの部品を売る露天商達が多くいた。法律施行後、彼らは秋葉原駅周辺に移動させられたが、当時の情報取得媒体としてのラジオを求める人たちには場所は関係ない。また、日本の高度成長期のステータスである家電製品はこの街をさらに発展させ、世界の観光地アキバが形成されたのである。パソコンで有名なあの店この店がＦＥＥＤ禍に襲われた。キミはどうする！？

■ベイサイドウェー

このマップのモデルは海浜マクハリ周辺の東京湾再開発地域らしい。プロ野球の球団、有名企業の誘致に成功したが、未だ人工的な冷たさの残る地域の印象も強い。大勢の人の集まるコンベンションセンターを向こうに、駅前タクシーの運転手が欠伸する姿にもＦＥＥＤの影が・・・。

■デベロタウン

都心に仕事場を持つサラリーマンのベッドタウンを想定している。人生の価値を持ち家、マンションに帰結させた人々の姿が哀れに幸せ

な日曜日。そこにもＦＥＥＤ感染は容赦しない。ローンの終了が人生のゲームオーバーだとしたら、この災いを楽しむ父親像もあるかも知れない。

■ケミカルマシンエリア
　地球環境汚染と工業化の矛盾を悟った場合、それ以後のアメニティはどうするのか。工業製品のもたらしてきた幸福を享受するのなら、環境を犠牲にするのが過去の歴史であった。それを象徴する地域がこのマップだが、ＦＥＥＤを放つ者には格好の啓蒙地帯なのだろうか。

●ディフェンダー　モード

——ある政府委員のモノローグ

　オレはあのＦＥＥＤを撲滅し、市民生活を恐怖におとしめようとしている連中を検挙するのが仕事だ。オレはそのためにＦＥＥＤのサンプルを採取しなければならない。採取したＦＥＥＤから研究者が有効な駆除薬剤を開発してくれる。それで、、地域内のＦＥＥＤを撲滅してしまうのだ。汚染が進行した地域なら、市民の安全のために地域封鎖の処理もする。被害者が出るのを、黙って放っておけるか。
　オレは、地域内にはＦＥＥＤを散布するテロリストを許さない。あの卑怯な連中が何を目的としていようが、無防備な一般市民を犠牲にするとは何事だ。あいつらは人間じゃない、一人残らずとっ捕まえて、ブタ箱で臭い飯をくわしてやる。理論がなんだ。そんなものより犠牲者となった子供の顔を見てみろ。恐怖で右往左往する人々に何も感じないのか。絶対、許さんぞ。
　オレには公務員としての熱い使命がある。それは心底、市民の安全を脅かす者に対する恨みだ。テロリストを自認して市民の生活を危険に陥らせる野郎は野獣だ、そんな奴に同情もしない。
　オレはオレに許されている全ての権限を利用する。その結果、政府機関内でも有能な人材を部下として揃えることも許された。オレの手足となってくれる仲間も、正義に対する熱意は相当なものだ。だからオレの考えた計画を見事に達成してくれるはずだ。個々の苦労はともかく、現実的な対応は迫られている。効果的な駆除薬剤の開発を援助し、テロリストの検挙・活動拠点の摘発をできる行動がとれるのはオレしかいない。暴力を撲滅し、必ず勝利宣言をしてやる。

●新秩序行進　モード

——あるテロリストのモノローグ

　現在の政治腐敗の状況は為政者の責任である。特定階層の人だけが優遇され続ける限り、我々の活動は停止しない。ＦＥＥＤは為政者を

見事に裏切った媒体だ。故にこれを活用する権利が我々にはある。何故ならＦＥＥＤは、その存在自体、同胞だからだ。我々が政府転覆を企てる理由は私事によるものではない。人民の総意を反映した理論的支柱は歴史的背景によってもたらされたものだ。多くの同胞がそれにより犠牲になるとしても、歴史がその合理性を証明してくれるはずだ。我々の使命は、ＦＥＥＤを使って特定地区を理論的合法的解放に導くことだ。その地域に壊滅的被害を与え、人民の血を流しても、その敵意は政府に向くことだ。具体的解放手段は、伝染力の強いＦＥＥＤの培養研究から開始される。過去の歴史は我々を支援してくれるのだ。ＦＥＥＤ培養槽において各種金属イオンをＦＥＥＤに与える事により、また、ふ化時間・成長過程での圧力や温度などにより世界で唯一無二の個性を持ったＦＥＥＤを培養することができる。培養に成功したら、それを効率よく地域に散布し地域の経済活動及び公安活動の破壊工作に移行する。国家権力の盲点を追究し、都市構造上の重要拠点を攻撃する事により、当局に与えるダメージも大きくなるはずだ。ただし、重要拠点は当然の事ながら当局の防御も厳しくなることが予想される。予算と人員を考慮に入れ諜報活動や妨害活動は必須の行為である。あるときは同士が自発的な行動により、我々に有益情報を提供し、妨害活動も援助してくれるだろう。

生活環境に妥協した都市型人間の心理は忍耐力や協調性に乏しく、当局に対する信頼感も薄い。そこで我々は都市の７０％をＦＥＥＤによって汚染すれば、都市は完全にパニック状態となり、都市機能を失い、君の目的は達成されることになる。我々は現実的戦闘要員として全ての権限を与えられている。当局との闘争における勝利は理論的に可能なことだ。猛烈な目的達成意識がここに必要なことは確実だ。我々の圧倒的勝利は、個々の采配に結集するのだ。健闘を祈る。

内閣特務第３部（FEED公安委員会）
—FEED Defense Control—

「内閣特務第３部　部長　ボーラン・カーン」
からのメッセージ

現在、地球上のいくつかの地域が、ＦＥＥＤの変種を病原菌の媒介物として利用する卑劣なテロリストたちの攻撃にさらされている。われわれは直ちに断固たる反撃を開始したが、ＦＥＥＤは大気中では生存できずまたいかなる条件においても人体には無害であるという長く続いた常識（最近までは事実そうだったのだ）と、汚染地域の火炎放射

による焼却という最終手段に対する住民の反感が、われわれの戦闘活動に対して重大な支障となり始めた。そこでわれわれは、われわれの行動の正当性を理解してもらい、かつわれわれ防衛軍の作戦行動への諸君の志願をあおぐため、ここに緊急メッセージを発することにした。

まず、いまだに広く行き渡っている「現在のＦＥＥＤ」に関する誤解については、多少長くなるがＦＥＥＤ培養の歴史の概略を述べなければならない。
数年前、亀島産業が「ＦＥＥＤ培養キット」を発売したとき、地球上のＦＥＥＤ培養の歴史に新たなフェイズがもたらされた。それまでにすでにＦＥＥＤの人体への無害性が解明され、また、相互の戦闘性を利用してギャンブルの媒体として使われたり、生育状態によって千変万化の形態と色が人気を集めペットとして飼われ始めてもいた。卵や飼育キットがコンビニエンスストアで売られもした。しかし、その頃までは普及の裾野はまだまだ狭かった。
第一に、一般家庭で手軽に飼うには装置類の価格が高すぎた。卵、培養槽、金属の餌だけならまだしも、高温、高電圧、高気圧および餌の一部の重金属を扱うための安全装置に金がかかりすぎた。富裕階級はともかく、中の上程度の家庭でＦＥＥＤを飼う余裕のある国民と言えば日本人ぐらいしかいなかったのだ。
一方、日本人には土地と暇がなかった！　かの国民の前世紀から世界的に有名な習性に、郊外に庭つき一戸建住宅を持つのを人生最大の目的とし、その夢の実現と同時に犬を飼い始めるというのがある。一部のファッショナブルな人たちは早速、犬をＦＥＥＤに替えようとしたが、高圧電流と高気圧の発生装置、培養槽内部のモニターシステム、重金属処理装置などを設置するためには、犬小屋とは比較にならない面積を必要とした。すべてをコンパクトにおさめる彼ら得意の技術を発揮することも考えられたが、これには猛烈にコストがかかった。また、装置を小さくすればモニターの頻度をあげなければならなかったが、両親が共働きに忙しく子供が塾通いに駆けずり回る家庭には誰も人がいなかった。というわけで、日本人のほとんどもすごすごと引き下がったのである。

そんな状況を「ＦＥＥＤ培養キット」が一変させた。
彼らは培養装置を小型化し、金属イオンの投入、培養槽内部のモニター、廃液管理、故障修復のすべてをコントロールするソフトウェアを提供した。凍結保存法を開発・導入し、一般家庭を時間の制約から解放した。彼らのシステムはラムジェット推進の宇宙船のようなスピードで売れたから価格も革命的に低くなった。　こうして世界中の家庭

にＦＥＥＤ培養が一挙に普及したのだ。
彼らのシステムはパーソナル・コンピュータで制御されており、培養に関するデータや発見、アイデアが、電子ネットワークを通じて世界中のＦＥＥＤ研究者やマニアの間を駆け巡り始め、ネットワーク上にＦＥＥＤ会議が設けられた。そして、いかに速く大量にＦＥＥＤの世代交代を引き起こし、突然変異による新種を生み出すか(無機質生物のＦＥＥＤにもこうしたことが起こることがわかったのだ！)が研究者やマニアたちの最大の関心事になっていったのである。この間の経緯については島川氏の報告書に、より詳しい事情がうかがえる。
今テロリストたちが地域に深刻な汚染を引き起こすために使っているのは、大気中でも生存でき、病原菌複製の『鋳型』となり、生体に感染する、新たなタイプのＦＥＥＤであることがすでに立証されている。このＦＥＥＤは強力であり、まだ不明な点が多い。これに対する薬剤(ワクチン)も、有効性がはっきりしているものは効果が弱く、効果が強いものは、時として原因不明の作用によりＦＥＥＤを増殖させてしまう。量も限られていて十分な薬剤を得るためには、冷凍ＦＥＥＤを採取して培養しなければならない。限られた時間と兵力と予算の中でテロリストと戦っているわれわれにとって、地域の封鎖・焼却は真にやむを得ない最後の手段なのだ。
人類への脅威となったこの新ＦＥＥＤは、研究者やマニアたちの無思慮な新種開発競争によって生み出された。そして、この競争の引き金を引いたのが亀島産業だ。われわれは彼らとテロリストたちの間に何らかのつながりがあるのではないかと考えている。この件については、現在調査中である。

さあ、これでみなさんの間に根強く残っていた誤解や反感は一掃されたはずだ。今われわれ保安部(ディフェンダー)はみなさんの志願を切実に必要としている。ここに、われわれの作戦行動マニュアルを示すので、直ちにみなさんの近くにある地域の戦闘に参加してほしい。敵の散布したＦＥＥＤを採取した場合に備え、ＦＥＥＤ培養とそこからの製剤方法についても掲げることとする。
なお、くれぐれも、みなさんの周囲にいる怪しい人物にこのメッセージは見せないように。特に現在われわれが調査中のあの会社の社員には…。

■作戦マニュアル

　われわれ保安部員に志願した諸君は、まず作戦行動への参加に必要なコードを覚えてほしい。
『デフェンダー　モード』だ。必ずこのコードを選ぶこと。
次に諸君が参加する戦闘地域を選ぶ。現在、４つの地域で戦いがおこ

なわれている。
「オールドエレタウン」「ベイサイドウェー」「デベロタウン」「ケミカルマシンエリア」だ。

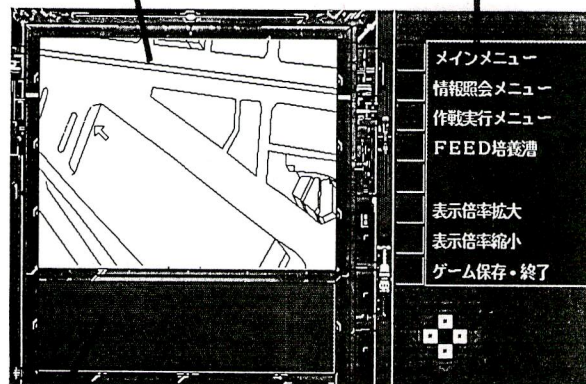
諸君は地域本部に入る。優秀な諸君はそのまま戦略コントロール室に案内される。前の壁面には巨大なスクリーンがある。諸君は刻々と変化する戦況をそこに見ながら、指令を与える。
戦闘拠点は最初は地域本部だけである。与えられている人員と予算はコマンドスイッチの「情報照会メニュー」、続いて「拠点の照会・変更」を選べば知ることができる。諸君は、拠点の新設・変更、薬剤散布、取り締り、地域の封鎖・焼却といった作戦を駆使しながらテロリストと戦う。作戦を実行するためには当然、人員と予算が必要である。冷凍ＦＥＥＤの採取に成功したときは(ポップアップウィンドーにより報告される)、「ＦＥＥＤ培養槽」で培養し薬剤(ワクチン)を製剤することができる。地図上には見えないが、テロリストも地域内に拠点を持っている。戦闘は壊滅戦、人員と予算のすべてをあげてテロリストをつぶさなければならない。地域を汚染されつくしたら敗戦、後に続くのは政府の転覆とテロリストによる恐怖政治なのだ。

●司令コンソール

①マップウィンドウ
地域の地図を表示する。偵察衛星「Super MapCom」からの赤外線撮影データを解析し、ＦＥＥＤ汚染の状況をリアルタイムに投影することが可能。コマンドスイッチにより、表示倍率の変更が可能。

③④コマンドスイッチ
いろいろな命令を実行する。各命令の内容は、次に説明する。

メインメニュー
情報照会メニュー
作戦実行メニュー
FEED培養漕
表示倍率拡大
表示倍率縮小
ゲーム保存・終了

⑤スクロールボタン
画面をスクロールさせる。
内側の□ボタンで、低速スクロール
外側の矢印ボタンで、高速スクロール

②メッセージウィンドウ
操作方法、その他の情報がリアルタイムに表示される。

●コマンド選択ボタンの構成

コマンド選択ボタンは、メインメニューを最上部とした階層状(ツリー構造)になっている。それぞれコマンドボタンをマウス・クリックすることで、割り当てられた機能を実行する。

[メインメニュー]

```
├[情報照会メニュー]
│    └┬汚染状況表示モードＳＷ
│     ├汚染状況数値表示
│     ├状況報告
│     ├拠点の照会・変更
│     ├表示倍率拡大
│     └表示倍率縮小
│
├[作戦実行メニュー]
│    └┬薬剤散布メニュー
│     │  └薬剤一覧表示
│     ├活動指令
│     ├地域封鎖
│     ├拠点新設
│     ├拠点の照会・変更
│     ├表示倍率拡大
│     └表示倍率縮小
│
├ＦＥＥＤ培養槽
│        ＦＥＥＤ培養槽画面を表示
│
└[終了・設定メニュー]
     └┬保存・終了
      ├破棄・終了
      ├ＢＧＭ設定
      ├表示倍率拡大
      └表示倍率縮小
```

●各コマンドの機能

「メインメニュー」のコマンド

■情報照会メニュー

汚染状況などの情報照会に関するコマンドを表示する。

■作戦実行メニュー

攻撃司令など作戦に関するコマンドを表示する。

■ＦＥＥＤ培養槽

ＦＥＥＤ培養槽画面を表示する。採取した冷凍ＦＥＥＤを培養槽で実験飼育し、FEEDワクチンを作る。（ＦＥＥＤ培養槽での操作は「培養の手引き」参照）

■終了・設定

ゲームの終了やＢＧＭの設定を行います。

■「情報照会メニュー」のコマンド

汚染状況表示モード

マップ画面上にFEED汚染を逐次表示するモードに設定する。

■汚染状況数値表示

汚染状況の総面積比、壊滅地域の総面積比、予算残高等をメッセージウィンドウに表示する。

■状況報告

現在の活動状況のデータを本部に送信する。本部は、データから現況を判断し、適切なアドバイスを返答する。また状況によっては、予算の増額・人員の補強などの特別賞与を得られることがある。

■表示倍率拡大

マップウィンドウの表示倍率を拡大する。

■表示倍率縮小

マップウィンドウの表示倍率を拡小する。

■「作戦実行メニュー」のコマンド
薬剤散布メニュー
現在までに、登録されたFEEDﾜｸﾁﾝを選択し散布する。薬剤散布する面積の応じて費用がかかる。

■活動指令
拠点と地域を指定し、工作活動を指令する。

■地域封鎖
ＦＥＥＤによって壊滅的な被害を被った地域を指定し封鎖焼却処理を行う。指定地域のＦＥＥＤ汚染を完全に除去することができる。ただし住民からの支持率が下がると同時に、経済活動を止めてしまうので税収 が得られなくなるので多用すべきではない。

■拠点新設
新たに活動拠点を新設する。活動拠点は、地域本部を含め４ヶ所まで設営できる。活動拠点の設営には、費用が5,000pt. かかる。5,000pt は別に駐在する人員に応じて活動費を割当てなければならない。
設営する地点、割当人員、割当予算、作戦を指定する。

■拠点の照会・変更
設営した活動拠点の活動状況の照会・変更をする。FEEDに汚染されそうになったときや、公安組織から検挙される可能性があるとき移転をすることや、削除して予算と人員を地域本部に戻すことができる。費用が、 5,000pt. かかる。

■「終了・設定」のコマンド
破棄・終了
保存をせずにゲームを終了する。

■保存・終了
現在のゲームを保存してゲームを終了する。次回、起動時に「前回の続き」を選択することで、ゲームを継続することができる。

■ＢＧＭ設定
FM音源ボードを装着した機種では、BGMの ON/OFF を切り替えることができる。

■予算について

通貨単位は、pt.が用いられている。任務を始めるとき、初期予算として5,000pt.が与えられる。しばらくは、この範囲内で任務を遂行することになる。それぞれ任務が功を奏する（敵拠点の破壊など）と、本部から報償金が与えられる。逆に、敵から攻撃を受け被害を被ると相当の出費を余儀なくされる。
予算をすべて失うと予算を消費するコマンドを実行できなくなる。それが原因で、負けることもあるだろう。

■人員について

人員は、任務を始めるとき、初期人員として10人が与えられる。しばらくは、この範囲内で任務を遂行する。任務の結果次第では、本部から特別人員派遣が与えられる。(最高合計100人まで。)

■ゲームの進行について

ＦＥＥＤ培養槽画面にいる間、指令コンソール画面のゲーム進行は停止する。ＦＥＥＤ画面で時間を掛けてＦＥＥＤを培養して、指令コンソールに復帰しても、状況はＦＥＥＤ培養槽画面に移る前の状態である。指令モードで形勢が不利な時、一発逆転を狙ってＦＥＥＤ培養槽で培養に励むという作戦ができる。

ＦＥＥＤアポカリプス
―あなたは黙示録の世界を望むのか

「神の業をも恐れぬ者」とは、彼ら為政者とそれを守ろうとする政府のことである。彼らは宇宙船舶に異常燃焼事故が頻発したそもそもの最初に、神の警告の声を聴き取るべきだったのだ。神が人に与えたもうた緑の惑星、地球をいつくしむどころか搾取しつくし、宇宙と生命の謎を解明したとうそぶきながら神の存在を忘れ去り、さらには彼らに与えられたわけではない他の星にまで資源の略奪に出かけていった。
ＦＥＥＤは星間航路にそっと置かれた神のいましめの種子だったのだ。
彼らがその意味を悟れば豊かな実を結ぶはずであった。人は宇宙との融和を取り戻し、神の庇護のもとに再びつつましく平和に暮らし始めたであろう。しかし傲岸な彼らはそこに神の意思が潜んでいることを夢想さえしなかった。ＦＥＥＤはその性格を変え、彼らを懲らし矯正する役割を神に与えられた。
その後のＦＥＥＤの変遷は純粋に決定論的に定められたものである。度重なる分化と突然変異や病原菌との結合も、神の懲らしめが忠実に顕現される過程にすぎないのだ。研究者やマニアの無思慮のせいでも、ましてや亀島産業の『ＦＥＥＤ培養キット』のせいでもない。一緒にせんといてくれ！
今、彼らは最後のあがきを始めている。だが、神の意思は貫かれねばならない。罪なき者たちからもいくらかの犠牲はでようが、神と人との間の歴史を見るがよい、やむを得ないのだ。ＦＥＥＤによる汚染は広がるがそれにより人々は浄化されるであろう。逆に、彼ら汚れた為政者は根絶やしにされるであろう。
この再建の道を阻んではならない。その時にはＦＥＥＤアポリカプスが到来する。ＦＥＥＤの原型は高圧電流が走る環境を好むことはご存じだろう。だがそれは、神の位相におけるソノリス的な統合波の一面がこの宇宙に物質化したものにすぎないのだ。ＦＥＥＤアポリカプスにおいては、神はＦＥＥＤのもう一面を物質界に現出させる。
それは原型ＦＥＥＤとは逆に微弱電流が走る環境を好む。ＦＥＥＤが生体に感染すると同時に、それは脳神経に析出するのだ。狂気がこの世を支配し人が『地獄』と呼ぶ場面が地球のあらゆる地域にじわじわと広がっていく。その時こそ、人々は絶望の叫びをあげるであろう。
オーマイガーッド！
われらがテロリストなどではないことは、おわかりいただけただろ

う。地球と人類を救うため、われらと行動を共にしてほしい。特務第3部が作戦行動マニュアルを配布したらしいが、その作戦をそっくりそのまま採用して真っ向から戦ってやる。彼らが薬剤を散布するのに対しわれらはＦＥＥＤを散布し、彼らが培養槽から製剤を行うのに対しわれらは培養槽でより繁殖力の強いＦＥＥＤを育てる。
あなたに必要なことは、われらの作戦マニュアルにしたがって、彼ら偽善者に対する聖なる戦いに参加することだけだ。

神の聖なる啓示

最初に、神の世界への扉を開くコードを教えよう。
「新秩序行進　モード」だ。決して忘れないでほしい。

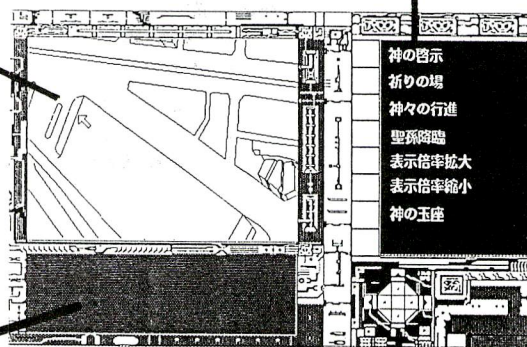
われらはあなたの自発性を尊重する。戦いに飛び込む地域を自ら選択してほしい。『オールドエレタウン』『ベイサイドウェー』『デベロタウン』『ケミカルマシンエリア』の中から選ばれよ。

諸君はわれらの支部に入る。神に特に選ばれた者はそのままコントロールルームにまで導かれる。目の前には荘厳なスクリーンがある。われらが聖戦をそこに確認しながら、指令を与えよ。

①神の偉大な目
地域の地図を表示する。偵察衛星「Super MapCom」からの赤外線撮影データを解析し、ＦＥＥＤ汚染の状況をリアルタイムに投影することが可能。コマンドスィッチにより、表示倍率の変更が可能。

③④神の大いなる手
いろいろな命令を実行する。各命令の内容は、次に説明する。

②神の聖なる御言葉
操作方法、その他の情報がリアルタイムに表示される。

※随時神の救いのお告げが現れ、状況を伝える。

⑤神のしなやかな指
画面をスクロールさせる。
内側の[]ボタンで、低速スクロール
外側の矢印ボタンで、高速スクロール

コマンド選択ボタンは、メインメニューを最上部とした階層状(ツリー構造)になっている。それぞれコマンドボタンをマウス・クリックすることで、割り当てられた機能を実行する。

```
[神の啓示]
　　├[祈りの場]
　　｜　　└┬汚染状況表示モードＳＷ
　　｜　　　├汚染状況数値表示
　　｜　　　├状況報告
　　｜　　　├拠点の照会・変更
　　｜　　　├表示倍率拡大
　　｜　　　└表示倍率縮小
　　｜
　　├[神々の行進]
　　｜　　└┬ＦＥＥＤ散布メニュー
　　｜　　　｜　　└ＦＥＥＤ一覧表示
　　｜　　　├攻撃指令
　　｜　　　├拠点新設
　　｜　　　├拠点の照会・変更
　　｜　　　├表示倍率拡大
　　｜　　　└表示倍率縮小
　　｜
　　├聖孫降臨
　　｜　　　ＦＥＥＤ培養槽画面を表示
　　｜
　　└[神の玉座]
　　　　　└┬保存・終了
　　　　　　├破棄・終了
　　　　　　├ＢＧＭ設定
　　　　　　├表示倍率拡大
　　　　　　└表示倍率縮小
```

各コマンドの機能

「神の啓示」のコマンド

■祈りの場
汚染状況などの情報照会に関するコマンドを表示する。

■神々行進
攻撃司令など作戦に関するコマンドを表示する。

■聖孫降臨
この戦いの聖剣となるＦＥＥＤ育成、表示する。
（ＦＥＥＤ培養槽での操作は「培養の手引き」参照）

■神の玉座
ゲームの終了やＢＧＭの設定を行います。

「祈りの場」のコマンド

■汚染状況表示モード
マップ画面上にFEED汚染を逐次表示するモードに設定する。
汚染状況数値表示
汚染状況の総面積比、壊滅地域の総面積比、活動費残高等を
メッセージウィンドウに表示する。

■状況報告
現在の活動状況のデータをに送信する。本部は、データから現況を判断し、適切なアドバイスを返答する。また状況によっては、予算の増額・人員の補強などの特別賞与を得られることがある。

■表示倍率拡大
マップウィンドウの表示倍率を拡大する。

■表示倍率縮小
マップウィンドウの表示倍率を拡小する。

■「作戦実行メニュー」のコマンド
(FEED散布メニュー)
現在までに、登録されたFEEDを選択し散布する。

■ 攻撃司令
拠点と地域を指定し、攻撃活動を司令する。

■拠点新設
新たに活動拠点を新設する。活動拠点は、地域本部を含め4ヶ所まで設営できる。活動拠点の設営には、費用が10,000pt. かかる。10,000pt は別に駐在する人員に応じて活動費を割当てなければならない。
設営する地点、割当人員、割当予算、作戦を指定する。

■拠点の照会・変更
設営した活動拠点の活動状況の照会・変更をする。FEEDに汚染されそうになったときや、保安組織から検挙される可能性があるとき移転をすることや、削除して予算と人員を地域本部に戻すことができる。費用が、5,000pt. かかる。

「終了・設定」のコマンド

■破棄・終了
保存をせずにゲームを終了する。

■保存・終了
現在のゲームを保存してゲームを終了する。次回、起動時に「前回の続き」を選択することで、ゲームを継続することができる。

■BGM設定
FM音源ボードを装着した機種では、BGMの ON/OFF を切り替えることができる。

■予算について
通貨単位は、pt.が用いられている。任務を始めるとき、初期予算として10,000pt.が与えられる。しばらくは、この範囲内で任務を遂行することになる。それぞれ任務が功を奏する(敵拠点の破壊など)と、本部から報償金が与えられる。逆に、敵から攻撃を受け被害を被ると相当の出費を余儀なくされる。
予算をすべて失うと予算を消費するコマンドを実行できなくなる。それが原因で、負けることもあるだろう。

■人員について

人員は、任務を始めるとき、初期人員として10人が与えられる。

しばらくは、この範囲内で任務を遂行する。任務の結果次第では、本部から特別人員派遣が与えられる。（最高100人まで）

■ゲームの進行について

ＦＥＥＤ培養槽画面にいる間、指令コンソール画面のゲーム進行は停止する。ＦＥＥＤ画面で時間を掛けてＦＥＥＤを培養して、指令コンソールに復帰しても、状況はＦＥＥＤ培養槽画面に移る前の状態である。指令モードで形勢が不利な時、一発逆転を狙ってＦＥＥＤ培養槽で培養に励むという作戦ができる。

FEED 培養装置仕様

●FEED 槽	
材　質	チタン系金属酸化物の焼結成形(内部絶縁容器)、クロム合金
容　量	2100cm3
耐　圧	7000気圧(10分間)、4500気圧(定格)
● 圧力調整装置	
設定圧力	1000～9999気圧
最大定格圧力	6500気圧
●温度調整装置	
設定温度	200～600°C(設定温度とFEED槽外壁との温度誤差±20°C)
●電圧調整装置	
設定電圧	500～1500V(FEED槽内の最大電位差)
●培養液調整装置	
投入・排出金属	Cu、Li、Na等最大12種
投入方式	金属酸化物ピルの強制押込方式
投入速度	110ppm/min. (Cu、3800気圧の場合)
排出速度	400ppm/min. (Cu、3800気圧の場合)
●その他	
環境条件	0～35°C、0～80%(但し結露しないこと)
外形寸法	760mm(幅)×600mm(奥行)×450mm(高さ)
重　量	80kg(本体)、95kg(圧力ポンプユニット)

●故障の場合の責任は負いかねます。故障した場合は、故障修復機能によりユーザーが自分で修理して下さい。

「自動製剤スイッチ」現在の培養槽の状態を判断して自動的に製剤お行います。
（ディフェンダーモードのみ）

「故障診断システム」FEED培養装置の故障を診断します。

「メインポンプ」圧力調整装置運転状況を表示します。

「電圧」電圧調整装置の運転状況を表示します。

「温度」温度調整装置の運転状況を表示します。

「ID-HISTORY」FEEDの名前や誕生日を表示します。

「集音マイクスイッチ」FEED培養装置のマイクのON/OFを制御します。

「スピーカースイッチ」FM音源のON/OFを制御します。

FEEDを凍結保存します。現在の状況で凍結して保存します。

凍結保存したFEEDを解凍してFEED培養槽に戻します。

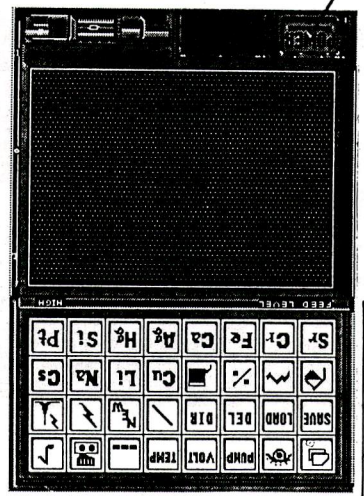
凍結保存されたFEEDを廃棄します。

凍結保存されたFEEDを一覧表示します。

現在の状態が数値で見ることができます。

FEED槽にFEEDの卵を投入します。

「電撃」FEEDに5,000ボルト程度のパルス電圧を加えます。

コントロールパネル
パネル上をマウスの左ボタンでクリックすると、次の機能が使えます。パネル上のアイコンは左上から順番に次の機能を持っています。

パワースイッチ
FEED培養槽から、司令コンソール画面に戻ります。FEEDが培養槽にいるとき、FEEDは活動状態のままです。
次回の起動までの時間が長いとFEEDの生命は保証できません。

超音波」FEEDに2メガヘルツの超音波を加えます。

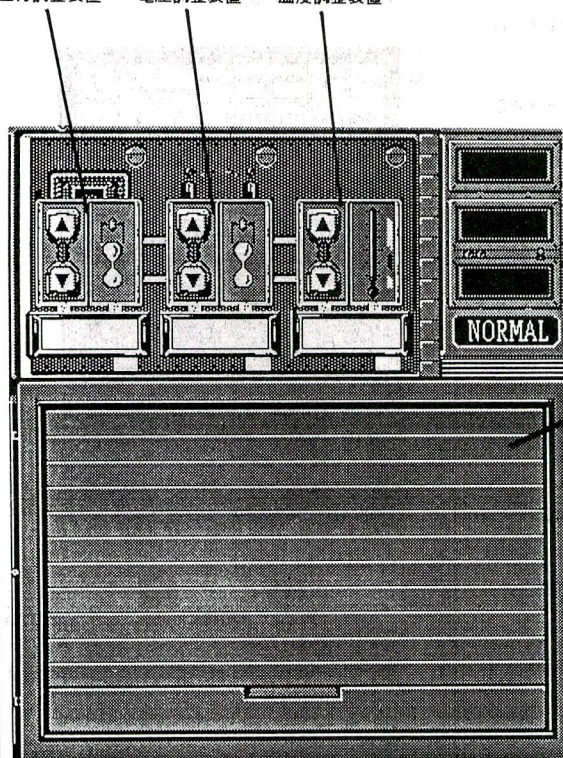
FEED槽に餌となる金属イオンを投入します。

金属イオンの濃度グラフを表示します。
餌の消費速度の確認に使えます。

帰属イオンの現在値を一覧表示します。

FEED槽から金属イオンを排出します。

FEEDの逆襲

圧力・電圧・温度の調整装置です。▲のクリックで上昇、▼のクリックで下降です。

FEED 培養の手引

1. FEED の好む環境

FEED は比較的環境の影響を受けにくい生物です。3800気圧程度の圧力と、摂氏450度程度の温度を保てば、しばらくは生存します。1100ボルト程度の電圧をかけた方が元気であることも知られています。

このFEED培養キットはこの環境を容易に実現できるように設計されています。適切な圧力と温度、電圧を設定し養分となる金属イオンを投入・排出ができます。標準的な培養液の金属イオン濃度は以下のとおりです。

元素	濃度	備考
Cu 銅	50-60ppm	必須
Li リチウム	50-60ppm	
Na ナトリウム	20-30ppm	運動能力に影響を与えるとされている
Cs セシウム	15-20ppm	
Sr ストロンチウム	15-20ppm	
Cr クロム	15-20ppm	形状に影響を与えるとされている
Fe 鉄	10ppm程度	
Ca カルシウム	10ppm程度	
Ag 銀	10ppm程度	
Hg 水銀	微量(10ppm以下)	効能はよくわかっていない
Si シリコン(珪素)	微量(10ppm以下)	
Pt プラチナ(白金)	微量(10ppm以下)	

それぞれの金属イオンは、投入後すぐに、FEEDに変化を与えるわけではありません。
すぐに影響を与えるものもありますが、投入後は注意深く観察することをおすすめします。

Cu Li Na Cs Sr Cr Fe Ca Ag Hg Si Pt

2. 孵化から幼生まで

FEEDの卵は、培養キットで'NEW'のアイコンを選ぶと培養槽に投入されます。当初はほとんど栄養分を必要としません。電圧を少し高め(1300ボルト程度)にすると孵化が早くなります。通常5分程度で孵化して幼生になります。

ガス状の幼生になったら、電圧を下げ必要な栄養分を投入してください。しばらく培養を続けると、FEEDは、固形状になり、たくさんの球が集まった形態になります。この状態では、まだ幼生です。戦闘させることはできません。

なお、この状態の幼生は、栄養分を大量に消費します。特にCu、Li、Na、Cs等の消費が激しいので頻繁(ひんぱん)に投入してください。溶液濃度は、Cuが70ppm、Liが60ppm、その他の金属が10〜20ppm前後が適当でしょう。標準培養液より濃度を少し高めにするのがポイントです。

卵が無事に孵化しなかったときは、FEED槽の圧力、温度等を点検してください。

3. 幼生から成体まで

幼生の状態でしばらく培養すると、固形球状のFEEDから形状が大きく変貌をし、成体になります。('／'のアイコンを選ぶと、成体になったかどうか表示されます。)

成体になると、栄養分をあまり消費しませんので、FEED槽の温度・圧力・電圧が適正なら何も手を加えなくても数日間は生存できます。

FEED槽の環境が適正でないとき、動きが遅くなり退行現象が始まります。この状態を続けると幼生のFEEDに戻るか、死んでしまいますのでご注意ください。

4. 成体での培養

FEEDは、成体の状態で培養を続けると、環境の変化に応じていろい

ろな形状に変わります。環境や培養時間によって、FEEDはアメーバ状、球状等に変形します。FEEDは、きわめて多様な形態をとります。色や点滅の速さなどが、まったく同じものはまずありません。
環境を変えてFEEDの形状の変化を鑑賞することができますが、標準的な培養液組成から大きく変えることはFEEDに強いストレスを与えますのでお勧めいたしません。
FEEDの元気がないときは、電撃や超音波をかけると一時的に元気になります。瀕死のFEEDが回復することもあります。しかし、電撃や超音波の生理的なメカニズムは不明な点が多く、1日に数回以上使わない方が無難でしょう。特に、他のFEEDと戦闘させる直前は避けてください。

5. 培養装置の終了のさせ方

左下の'POWER'アイコンをクリックすると、培養装置が終了します。
このとき、培養槽内にいるFEEDは活動状態のままです。FEEDのプログラムは終了しますが、FEEDは時間の経過に応じて成長を続けている状態です。次回、起動させたとき元気な成長したFEEDに出会えるかも知れませんが、数日も放置するとFEEDは死んでしまっているかも知れません。

なるべく、1日に1回は起動して、FEED培養装置と培養液を点検して下さい。
'POWER'アイコンで終了させる前に'SAVE'アイコンで培養槽のFEEDを凍結保存することもできます。凍結保存を実行すると培養槽にFEEDはいなくなりますから、次回、起動させたときに'LOAD'アイコンでFEEDを培養槽に戻して下さい。凍結保存したFEEDは、長期間保存した時点の状態を長期間保ちます。

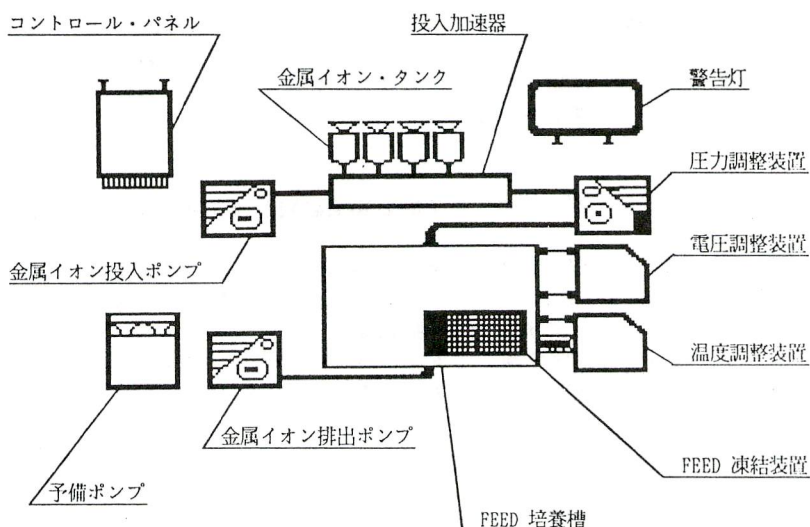
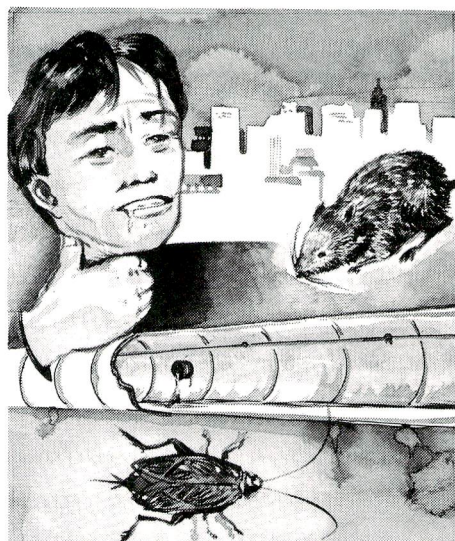
6. 培養装置の故障について

FEED培養キットを規格外で使用したり、または長期間使用した場合、故障することがあります。故障を起こした場合、警告灯が'DANG

ＥＲ'を表示します。なお、培養装置が正常なときは、警告灯は'NORNAL' を表示しています。

'故障診断システム'のアイコンを左ボタンでクリックするとディスプレイ上に装置の一覧を表示し故障箇所を知ることができます。

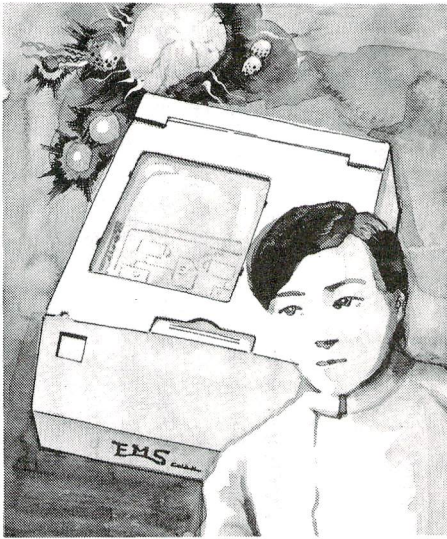
ディスプレイに表示された故障箇所をマウスでクリックしていただきますと機能により自動的に修復します。修復には数分間を要する場合があります。補修中は該当する機能が使用できなくなりますので警告灯が'ＤＡＮＧＥＲ'表示した場合、なるべく早く修復操作を実行して下さい。

各装置の名称一覧

てしまう状態を形成することがあるのは、抗生物質と抗体のいたちごっこと同じだね」
「しかし、その研究でも成果はあったんでしょ」
「それは、研究が進めば配合の組み合わせを限定という意味だよ。それで有効であるか否かを見極めることができるんだけど、FEED汚染が進んだ地域で薬剤散布したとき、ほとんど効果が見られなかったケースもあるんだ」
「現在では、薬剤を散布する方法と特定地域を封鎖して火炎放射装置を用いる焼却方法とがあるよ」
「ああ、汚染状況によって使い分ける方法ね」
「でも、誰も想像できなかったのが、FEEDシンドロームにつけ込んだテロリストの登場だったね」

「あいつらはFEEDを故意に散布する事で、駆除処理にかかる支出を増大させて財政を圧迫させたんだ。FEEDを処理するとき、地域を焼却処分するケースがあるじゃない、当然 地域住民は焼却に反感を抱くよね。そんな住民心理を利用してまで、現政権に対する支持率を低下させようとしたんだよ」
「FEEDを飼育するのはノウハウがあるし、散布するのは難しいことじゃない」「それを駆除する費用と比較したらね」
「特定地域に集中的にFEED散布したテロリストがいたね あの調書によると、不特定多数の地域を汚染して政府の転覆を果たしたとしても、その後の対策と考えると何の利益も生じないと主張したんだ」
「FEED散布にもノウハウがあるっつうことか。それで、テロリストへの具体的な対応はどうなったの」
「実際に過激派の集団を把握した政府関係者は、その脅威に対抗するため駆除活動とテロリストを検挙する目的で国家権力を強化したよね」
「それがディフェンダーでしょ。でも、取り締りを強化して、不審者が数多く検挙したままではよかったけど、捕まえたのはみんな末端の活動員だったらしいよ」
「担当者の嘆きって知ってる?」
「FEEDの散布は子供でもできるってアレね」

いる。
こうした報告が公衆衛生委員会の目に止まり、さらには環境庁まで乗り出すことになった。もちろん、FEED培養キットの改善要求と使用可能金属元素制限条例の実現というおまけまで付いてしまった。ちなみに、開業医のデータから関係者だけが知っている情報がある。それは、条例化されるまでの年月を考えると、FEEDが特定の菌種を増殖させる媒体になっている可能性も考えられるということだ、だとしたら…。

●CONVERSATION

「これまで無害だっていっていたFEEDが突然変異体して生命体に害を及ぼす病原体を増殖させるらしいよ」
「一般に高圧・高温の培養漕で飼育しているFEEDだから、人体に触れる可能性などないに等しいのにな」
「でも、不慮の事故などで人的被害がでることを恐れるのが役人思考というものでしょ、FEEDの飼育を禁止して、これまで市場に出回っていたFEED培養装置やFEED個体を禁制品に指定し回収を開始したんだよ」
「報道機関は突然変異体のFEEDについて衝撃的に報道したけど、それまでその不思議な生態と輝きで人々を魅了していたFEEDの価値観が変わったのは事実だよな」
「政府の研究機関は突然変異体FEEDを分解する方法を研究していたが、その研究で分かったことは、超高温で焼却することで組成元素レベルまで分解することだったらしいんだ」
「ああ、あの報道では、当初、市場に出回った全てのFEEDを回収して超高温焼却炉で焼却することで解決されるかに思われたんだよ。でも、実際には一般に出回っていたFEEDはセンセーショナルな報道パニック状態で、飼っていた人が勝手な方法で処分して、中には下水やゴミ処理場などに不法投棄した例も報告されていた」
「あれは衝撃があったたね、それまで高温・高圧の培養槽で飼育されていたFEEDの大部分は培養漕から出されるだけで死滅するけど、不法投棄したFEEDの中には、常温・大気圧に適応するものが現れていたということなんだ」
「それが、特性を変異しながら増殖して短期間のうちに新たな無機質生命体へと進化してしまった奴だよ。不運だったのは、あらゆる生命体を媒介にして接触することで伝染して生命体の組成物質を餌にさらに増殖した…」
「FEEDの成体は、接触吸収した物質によって状態が変化することが知られていたじゃない。その知識を過信して、積極的に吸収する物質はすでに特定されたと思っていたんだ」
「過去に蓄積されたデータから吸収物質を用いた駆除法が確立しても、進化したFEEDの前で、全ての個体に有効な薬剤なんてどだい無理なことだったたね。サンプルを採取しては、そのサンプルに有効な薬品を実験しながら調合しなければならないんだぜ。あるサンプルに対しては有効な配合の薬剤でも、他のサンプルには無効どころか増殖を助け

うに、用意されている薬に対応するものがあることに気がついた。確かに、その数と患者数が比例している!!患者の激増を予見できることが、このデータを裏付ける結果になっている!

そこから事態が進展した。いざ目標とする物がはっきりとしていると、データからのパターン抽出に対してもかなり正しい条件付けができるものだ。事実が背景にあるのなら、個人ベースで使用が許されるCPUで多くの情報が抽出できた。その情報で開業医は莫大な金を得ることも可能だったはずだが、医師の自覚がそれを拒絶した。説得力のある報告書をまとめて関係機関に送付した結果、開業医はその対応機関に迎えられることになった。厚生省から報道機関に公表された報告は「FEED—Bリポート」という名前が付けられていた。

人為的に地下水脈に病原体がばら撒かれたことは歴然としていた。しかし、どこで大量の菌種が製造されたのだろうか。また、その目的は何なのか。こうした社会的事件の場合、反体制側の犯行声明が出されるものだが、それは皆無であった。実際に病源体が流域住民に影響を及ぼすまでのロスを計算した結果、単一の化学工場の廃液程度の量では不可能なことがわかった。そこで水脈中で増殖することも考えられなければならないことも判明した。

この問題に解答を与えたのが突然変異で分化したFEEDである。当初どう考えても金属結晶体生物FEEDと純粋に有機物質である菌種の結合は考えられなかった。しかし、FEEDを初期に大気中の環境下で(現在公的な研究機関の発表では、摂氏拾百五十度、十気圧下で増殖可能なFEEDが存在する)増殖できる場合はどうだろうか。実際に複雑な蛋白質の構造を解析することは素人には出来ないが、その鋳型を不活性な純粋金属で作り上げてやればコピーを製造することは比較的たやすいことではないか。

詳しい製法はともかく、この方法で簡単な蛋白質の合成を試みた研究は過去に例がある。そのケースではFEEDの生育環境に難点があったのでFEEDの死骸(完全に活性を失ったFEED)で実験が行われた。ある種の特殊な環境下で生育する(原油からエネルギーを得て増殖するあの菌種である)蛋白質の合成であったが、これは見事に成功して

●ＩＮＥＶＩＴＡＢＬＥ

発端は、季節のわりに頻発していた食中毒だった。患者の中に知人のいた開業医が、それに興味をもった。開業医は、食中毒が頻発する原因が、発生地域に起因するのではないかと考えた。そのため、国土地理院の発行している二万分の一の地図を詳細に検討したし、こうした例で必ずチェックしなければならない化学工場の排水を調査したりした。発生日時とこうした状況の間に、地理的、人為的パターンを抽出しようとしたのである。

もっとも、こうした行動をしたのは、知人の発病という興味からだったので、本腰を入れたとは思えない。仮に、発生原因や時期を特定できれば、自身の名誉が上がる程度の欲求は誰だってあるものだ。医療機関としても迅速な対応が可能となるし、評価が上がればそれなりの患者数が望めるし、出身大学から招聘されることもあるかも知れない…。

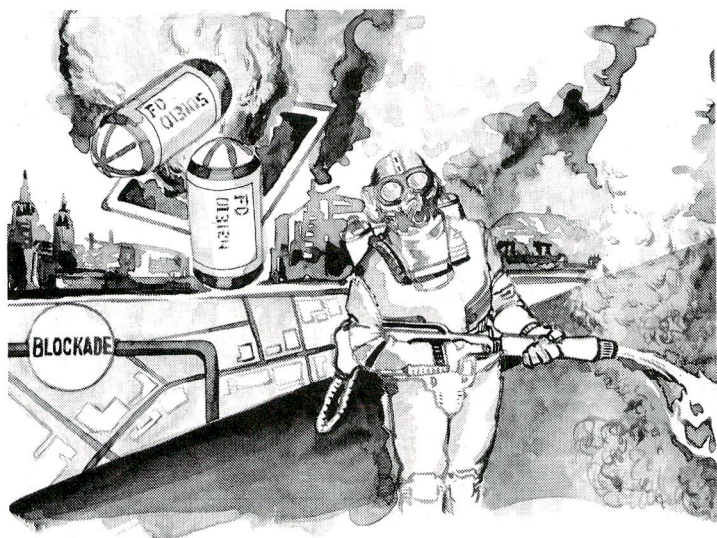
因果関係の調査は診療時間の合間をぬって行なわれたことなので、時間との戦いであった。知人のくれたＦＥＥＤ培養キットで息抜きをすることがあったので、まだ作成途中のリポートの名前にＦＥＥＤの名前を入れようかと思い浮かべたこともある。欠伸を殺してでも、ペンコンピュータでデータを入力することも忘れなかったが、実際には収集データの総てを入力することができたかといえば、それはない。データ抽出に統計学的手法を採用して、つまりは端折って、いたのである。そんな状況で検索抽出プログラムのアルゴリズムを確認するためにテストランを始めてしまったのだ。しかし、どう考えても期待するような結果は得られないはずなのに、入力データの偶発的な片寄りがそれを補ったのである。ディスプレイには、あるパターンが抽出されたのだ。当初、開業医が週刊誌に寄稿したそれで、水道局の怠慢と税金の無駄使いを指摘する「見当違い」のキャンペーンがはられた。

開業医は、上水道送水管の破損箇所を修繕しない水道局の怠慢よりも、伝染病の発生時期と発症件数を問題にして欲しかった。そこには徐々にではあるが、次第に大都市圏へと接近しつつある被害地域、雨期に入って必ず数週間後に発生し始める発生状況、そしてここ数年に入って極端に抗生物質に耐性を持ち始めた病原体の新種分布状況が示されていた。雨期に入ると地層内の水圧が上昇する事が発生の引きがねになることは納得できるし、都市は低地に有り、地下水脈の流れも、結果的に海に向かって流れるものなのだ。

ただし、抗生物質に対する耐性はどうだろうか。これは、感染した患者に投与した抗生物質に対して耐性が生じるのであって、地下水脈を静かに流れる病原体とは無関係なはずである。どの様な推理を開業医がしたのか、それは本人も思い当たらない。本来、医師の投薬する抗生物質は一般に市販されるような代物ではない。また特に伝染病に対して使用される抗生物質は、それに対して生じるであろう菌の耐性を計算して選ばれる。つまり単に投薬によって生じる耐性はある程度予期され、かなり期待にに沿ったものとなる。こうした直感から、抗生物質に対する耐性が予定調和するよ

それに依存して生活している人も、事故が発生すれば、その重要性を再認識するはずだ。

ある上水道があった。水道は地下に埋設された金属製の導管を通じて供給されているが、それは各種の腐食を受けて次第に破損箇所が目立つようになる。この上水道も同様で、破損箇所のひどいところでは、浄水場から送られた水量の約五十%が行方不明になってしまったのである。埋設後約百年間も放置された場所だからそれはしょうがないが、統治する側はそこの都市構造が激変したと抗弁するだろう。これを修復する費用は、構造変化の激しい場所ほど、新たに付設するよりも費用がかかるものだ。

数値的には、メガロポリスで使用される量の三倍の水が浄水場から送出されている！上水道の破損が理由であるのは明白だが、この上水道の沿革地域で爆発的に猛威を奮った伝染病の発生があった。本来　高圧圧送されている上水道に外部から何かが混入することはないが、過去の事例でも流域生活者の水道使用量がピークに達した場合、一時的にではあるが、送水管の内圧が極端に低下することが確認されている。また、集中豪雨による地下水位の上昇が重なったケースでは、上水道の本管にですら地下水の混入が起こる。水が濁るとか、味が変わるという知覚的な変化が現れた場合　漏水箇所を追求する時間もかからない。しかし、その箇所を限定されれば修理が行われることあまりない。回復費用と損傷損益のバランスの上で動くのが、統治者というものなのだ。もっとも、送水管が高度大深度地下空間利用で、混入する地下水も見た目はかなり清涼な物のことだってある。どちらにしても、極度な減少が発見できなければ、この上水道を利用している住民は、長期間、この水を飲み続けてしまう事になる。

SA型FEEDだって、すべての分化創造と比較したら微々たるケースに過ぎないじゃないか。

パソコン通信のFEEDフォーラムをのぞいて見ろよ。変種の闇マーケットがあることがわかるし、売買なんて簡単だ。クレジットカードの自動振替を利用すれば、明日の午前にはそいつが配達される。クローン製造技術の発達で、余程特殊な意味のあるもの以外は、できたその日にエントリーされている。中には、相当やばいのがあるらしいけど、まあ、どんな社会だって表裏一体というものじゃないの。

カルトな雑誌「FEEDING」に掲載された記事なんて、かなり過激な内容だったよな。仲間内で話題になったけど、ぼくのMRSA型FEEDの相似形ではないかと思ったもの。特定元素をある程度触れていると耐性力を上昇させるFEEDについて、専門家は、単純な条件反射に過ぎないという説を曲げないけれど、あれってそれを採用した後の麻薬的な魅力の方が重要だと思うね。闇のマーケットのヒット商品となったＦｅ耐性FEEDなんて、培養槽内の圧力を急激に増減させたから、槽壁にヒビが入って使い物にならなくなることがあった。最初からそうだとわかれば、誰も購入しなかったけど、ヒビの以前の反応色と形態変化は、美の極地と誰もが認めているところなのさ。

「FEEDING」によると、Ｆｅ耐性FEEDの供給元は未だ不明とのことだ。でもね、あれっておかしいよ。あの雑誌社が調査したら、開発団体が特定できているじゃないの。パソコン通信で検索できる民間調査機関のデータベースを調べたって、開発団体が特定されている。絶対、裏があるね、わざわざ複数の団体を上げているけど、雑誌社とデータベースで重複するところは…まあ、いいか、訴訟ざたにでもなったら大企業の弁護団の攻撃にやられるだけだ。

●OCCURRENCE

都市のランクを定義をする場合、水道設備の拡充は主要要因となるはずだ。古代の都市から、現在の都市まで、これを統治する者は、莫大な費用をかけてきた。飲食と排泄は人だけでなく、その生活の歓迎したくない友人、ねずみ、ごきぶり、ダニにも共通する行為である。水道設備は人にとって必須の設備であるが、彼ら都市連鎖を受け持つ生物の生活を保証したものであった。

都市の設備は上下水道の整備の他に、ガス管や交通手段など数え上げたらきりがない。巨大ビル内には、塵収拾の自動化設備があり、即時に処理場まで真空移送されている。これはゴミの散乱等を押える目的があるが、そうした投資を行なう理由は何だろう。

そこには膨大な人口を包含するためという前提がある。わずかな事故でも、メガロポリスの内部ではパニックに陥る危険がある。耐震構造のビル、防火扉、誘導燈などとは無意識のうちに接触している。しかし、歴史的に都市施設の古典となった上下水道の目的が、伝染病の感染経路を断ち切ることだったことは忘れられている。多くの施設がそうであるように、設備の老朽化は時間とともにやってくる。無意識に

為は、FEEDの生命維持時間よりも、この洗浄時間を短縮化できないかという実験だったのだ。
わずかに生命のあった亜種FEEDは、超音波刺激に反応した！計測器もそれを示していたが、エイカースはそれに気がつかないまま、洗浄時間の終了を待って皿を元の場所に戻そうとした。そこに研究所の賄いをしている人のよい中国人の陳おばさんがやってきた。
「なんだ、エイカースさんが持っていたのか」
「陳おばさん、たまにはパイナップルをたくさんのせたハンバーグステーキを作っておくれよ」
エイカースは研究室から出たばかりなので、専用手袋でゲーツの皿を持っていた。
「アメリカ人はそんなものばかり食べているから、長生きできないんだ。だけど、生さかなの好きな古川が休暇しているうちに、それを食べようかね」
陳おばさんは、皿を受け取った。ただし、彼女も掃除用のゴム手袋をしていた。
エイカースと別れた陳おばさんは、皿に水を張って、ゲーツの鳥かごに入れた。ゲーツはおいしそうに水をついばんだ。
これが亜種FEEDと最初に直接接触した動物だ！

●CONFESSION——ある電子メール

ぼくが知りたかったことは、実際にFEEDの分化を進めて行くのか、そのメカニズムだったのだ。けれど、今から教えることは、ぼくの経験と伝聞を重ねたものだから、科学的な根拠のあるものではない。FEEDを育てる行為は、ぼくのクラスメートだってやっていることだ。スカリーが微量のプルトニュームを手に入れたことだってFEEDのパワーのために必要だったことなのだ。ぼくが名前を付けたMR

えた。さらに、永久磁石を製造するための成分として有名なマグネタイト(Fe_3O_4)のような物質を、彼らは体内に持っていた。人はコンパスという道具から、その方向を知ることができる。しかし、道具を作らない動物に神が与えた力は、その体内にある「生物磁石」から、方向を認識させるものだった。
果たして、決して自身から意志の疎通を求めない彼らに備わっている能力はこれだけなのか?

●ＥＰＩＳＯＤＥ

1975年　ＭＩＴの学生だったブレークモアは、海の泥の中に、北の方角だけに向かう微生物を発見した。「走磁性微生物」と名付けられた、この微生物に棒磁石のＳ極を近付けると、何とこれに向かって泳いだ。しかも、この生物は、数多くの国に平然と存在するものだった!
1978年　プリンストン大学のグールド達は、ミツバチの腹部からマグネタイトを含む合タンパク質を抽出することに成功した。翌79年　同大学のカーシュビンク達は、サメの頭部から側線までに磁性物質が分布することを発見している。さらに1980年のことだが、イルカの頭部にも磁性物質があることが発見された。アメリカの東海岸で、岸に打ち上げられたイルカやクジラについて、その原因を地磁気と関連するという見解を出した日本の大学教授もいた。
こうした科学的な証明がされる中、生物学的な謎は解明できていない。それはマグネタイトの生体内合成が、どこでどのように行なわれているのかということである。

ある年、もはや珍しくなくなったＦＥＥＤの亜種がいた。しかし、普通のペットになってしまったものの色や形が少しくらい変わったところで、人は何にも感じない。その亜種は、バトルを繰り返すうちに、亜種だけが残ったことを誰も知らないことだった!
他方、大気の中でも生活できるＦＥＥＤの研究は、チベットの高地にある研究施設で飛躍的な進歩があった。減圧レベルとＦＥＥＤのパワーレベルを連動させたシステムと、バトルの時だけに体内から発生するガスの研究から、大気中でもどうにか生命維持が可能となったらしい。
アメリカ人は根っからの遊び好きである。研究に参加していたニューヨーカーのエイカースも、ある朝、ジョークで皿の上に培養したＦＥＥＤのひとつをのせてみた。もちろん彼も専門知識があったから、直接、手で触れるようなことはしなかった。メカニカルハンドで摘んで、その皿に移したのである。エイカースは、それまでの実験から「今度のＦＥＥＤは何分生きるかな」程度のことしか考えなかった。どうせ駄目だと思い込んでいたので、洗浄処理が簡単な皿を用意したのである。ちなみに、その皿は研究所で飼っていたペットの小鳥ゲーツの餌入れでもあった。スコープでのぞいてみると、そのＦＥＥＤも、これまでと同じように数分で動かなくなった。いつもなら微細なところもチェックする日本人学者の古川がいて、この後、計測器のメーターがゼロを示すまで待つことになる。時間にすると四、五分のことである。それから容器の超音波洗浄に約十分必要だ。エイカースの行

は、取締りの対象となったのだ。ただし、そうならざるを得ない理由があったことも事実である。不良培養キットから漏れたガスのおかげで営業妨害されたと訴訟を起こしたフライドチキン屋もあったが、決定的だったのはそれで訴えられた者が通産官僚の息子だったことだろう。官僚は、環境保護、エコロジーなどの単語を網羅してＦＥＥＤの飼育に対して制限を設けたのである。

規制ができた日の朝、葛飾区東水元に住むＦＥＥＤマニアは、いつもより早起きをした。夜中に野良猫のサカリの声がうるさかったため、まどろんだ状態の睡眠をとっていたのだ。そこへ「カタっ」と音がした。マンションの扉に朝刊が投げ込まれた。東の空から淡い光が入ってきたことに気がついていたので、朝刊を取り、テーブルの上に広げてみた。

「公認済みＦＥＥＤ培養キット、本日発売！」

何と、テレビ番組欄の下の方にそんな囲み広告が掲載されていた。一週間程前のニュースでは、あまりに厳しい販売条件をクリアする製品が開発されるまで、今後数ケ月はかかるだろうといわれていた。適合タイプのキットを発売したその会社は業界大手のＥＭＳ社だったが、その日のうちに通産官僚と業界の手打ちがあったという情報も、ＦＥＥＤ愛好者の間に流れたことを記憶しているだろうか。

●IMPUTATION

非常にトレーニングされた動物の中には、信じられないような距離でも、自分の巣や生まれた場所に戻れる帰巣本能がある。具体的には鳥類や魚類がこうした能力に優れているが、何故、こうしたことが可能なのか、本当のところはわからない。過去の人は、渡りの現象で数万キロも離れた自分の巣に帰ることができるのは、嗅覚によるものだと主張した。成長しても産卵のために生まれ故郷の川に戻れるのも、人類の想像とはかけ離れた嗅覚を野生の動物がもっているからこそなせる技だというのである。

二十世紀までの科学的な研究結果では、こうした信じられない能力を解き明かすヒントとして「太陽コンパス」と「生物時計」というキーワードが発見されている。嗅覚もそうだが、野生の能力は、視覚から聴覚などの五感に至るまで発達していて、太陽の位置からと体内時計から、自身の運航方向を補正する能力があるというのである。確かに絶対的なポイントを知っているなら、そこから体内時計を使って測量することは可能だろう。

ミツバチ、伝書鳩やサメ、イルカなどは地磁気を感じることができる。これは野生の本能を研究する過程で発見されたことである。「太陽コンパス」と「生物時計」だけでは、天候の前では説得力が不足するはずだ。太陽の出ない雨や曇天の日、あるいは夜間でも鳥は迷走しないし、魚も溺れない。さらに、火山の噴火や大地震を予見するように、彼らはその姿を消していく。

二十世紀の後半、ある種の細菌は地球の磁場を感じることがわかった。この発見は野生の能力を研究する学者の間では、それ以前の書物の意味を疑わさせるくらいの驚きを与

●ＡＤＶＡＮＣＥ

これまで「ＦＥＥＤは純粋に金属元素を取込み、外部から得たエネルギーによってその元素の高純度結晶を精製し自らの外形を形成する材料に変化させていく生物」と定義されていた。ＦＥＥＤの多くは、純粋に生態学問上の教材と研究テーマ、または少し毛色の違ったペットとなったことも事実である。こうした延長に何が待っているのか、ＦＥＥＤ自身に問い合わせてみれば理解できたのだろうが、残念なことに、彼らと知的コミュニケーションをする手段は皆無であった。普通の人々には、単なる高純度結晶の形態変化を楽しむ程度の意識しかなかったが、別の視点に立ってみると、その楽しみを享受することはＦＥＥＤの種の分化ともいえる現象を促進していたことになる。自然界がそうであるように、分化した種の進化の中には、原種とは全く違った生態を持つものが出るはずだ。突然変異がそれであるが、それは事後から因果関係を遡るのが普通である。

ＦＥＥＤの場合、特異なエポックとして、２つの個体を戦わせようとしても見向きもしないものが現われたのだ！研究者は、この現象を種の交配が不可能になるまで分化したケースと論文を書いたが、ペットとして飼っていた人にしてみると、そんなものは興味の対象とはならない魅力のないものだった。自分が育て上げた意味が、その強さとして反映されないなんて‥‥。

それでは、ＦＥＥＤ自身の世代交替の間隔が極めて短いのだろうか？生物学や医学の世界では、マウスを採用して、種の進化、種の分化などを促進している。その中には、実験目的に合わせた、特殊な用途にしか適応しない種を作り出すとだってある。前近代的な医学実験に多用されていたヌードマウスがその例だ。誕生から死に至るまで、極めて短い間隔で世代交替していくことは、実験をする側には都合のよいことだった。

ＦＥＥＤの場合、これを育てる上級者ともなると、適切な生育環境を与えるコツを知っている。ある生育リポートによると、数時間で成長させた報告は珍しくなく、港区東麻布のマニアの例では、数十分で次の世代を生み出した例も報告されている。グアム島のタモン地区に住んでいたマニアのケースでは、ＦＥＥＤのクローン培養促進キットを自作して、数時間に数十世代を生みだすキットとして売り出したらしい。もっとも、このキットの製造元は台湾で作られたものだから、表現がオーバーであることはいうまでもない。どちらにしても、あなたの隣の部屋の住人が、新世代のＦＥＥＤと遭遇している状況が現在なのだ。

そこには思いもよらない特質を持ったＦＥＥＤが登場したことは、充分に想像できる。５年前、マスコミは不景気を反映した税収強化のためと伝えたが、ＦＥＥＤの培養キットに証紙が貼られるようになった。こうした課税を図る場合のお定まりのパターンとして、政府系機関が作られる。それが組織される表向きの理由は、製品保証・研究開発などだが、時間を経てみると、単なる天下りのための窓口という場合が多い。ともかく、証紙が貼られていないＦＥＥＤ培養キット

FEEDクライシス

暫定報告書

FEED
クライシス
暫定報告書